

第四十四回・奈良県宇陀市

「かぎろひを観る会」に参加して

グランドツワいわみ芸術劇場 館長 末成 弘明

東の野にかぎろひの 立つ見えて
かえり見すれば 月かたぶきぬ

数年前から万葉の歌枕を巡る小旅行に出かけています。地元の誇る「石見相聞歌」の魅力より認識するためにも、作者柿本人麻呂はもとより、その影響を多大に受けた大伴旅持(因幡守)やその父大伴旅人、高市黒人、山上憶良(伯耆守)などの歌の舞台の風に吹かれてみたいからです。

「東(ひんがし)の野にかぎろひの 立つ見えて かえり見すれば 月かたぶきぬ」万葉集に興味がなくとも、誰もが一度は聞いたことがある柿本人麻呂の有名な歌です。江津市で開かれた人麻呂シンポで、ゲストの女優 植ふみさんが「天皇陛下が一番お好きな歌よ」と紹介されました。歌の舞台になった奈良県宇陀(うだ)市では、「かぎろひを観る会」を約半世紀にわたって開いています。昨年十二月二十七日、「かぎろひの丘万葉公園」のイベントに初めて参加しました。午前四時、闇夜を破るような大篝火が焚かれ、万葉衣裳の地元の人たちが「東の」の歌や、全国応募した入賞短歌を高らかに朗詠。奈良芸術短大の前園実知雄教授による万葉講話や、シルクロードの民族楽器演奏に耳を傾けました。参加者は全国から約二百人。地元の皆さんが振る舞う葛湯で身も心も温かく、東の空に薄明かりが差す「かぎろひ」の目を凝らしました。あいにくの曇天で「かぎろひ」は見られませんが、軽皇子(かろのみこ)後の文武天皇の狩りに従駕した人麻呂の雄姿が千三百余年の時を超えて、まぶたに浮かび上がりました。観光ボランティアガイドの方々の案内で阿騎野(あきの)周辺を散策したり、壁画「阿騎野の朝」を拝見しました。手作りの心こもったおもてなしが無性にうれしい万葉の旅でした。(山陰万葉を歩く会 顧問)



大篝火を背に「かぎろひ」の出現を待つ参加者たち

最新ニュース

平成27年度「古代歴史文化賞」優秀作品賞に「万葉集と日本人」読み継がれる「千百年の歴史」小川靖彦著・角川選書が選ばれました。古代歴史文化ゆかりの深い鳥取県(鳥取県立歴史センター)・奈良県(宮崎黒三重県和歌山県主催)が選んだ作品です。なぜ日本人はこんなにも万葉集に魅かれるのかなどの内容が満載(せひ)一度ご覧ください。

「山陰万葉を歩く会」ご入会のご案内

■「山陰万葉を歩く会」の概要

- 会長 川島 芙美子(風土記を訪ねる会代表)
- 副会長 木谷 清人(鳥取県公益文化財団理事長)
- アドバイザー 藤岡 大拙(霊神会博物館館長)
- 内田 賢徳(萬葉学会代表)
- 末成 弘明(いわみ芸術劇場館長)
- 年会費 個人2千円、団体1万円

■会費の振込先

- ①ゆうちょ銀行 一三九店 当座 0052207
- ※ゆうちょ銀行口座からの振込は 口座記号番号 013401425597
- ※会報に同封の振込用紙を使うと手数料無料
- ②山陰合同銀行 江津支店 普通 3659557
- 山陰万葉を歩く会 会長 川島 芙美子

■申し込み問い合わせ先(事務局)

江津市役所商観光課
電話 (0855)521-7494
FAX (0855)521-1365
メール shokuhanko@city.gotsu.lg.jp

鳥取県立万葉公園のHPでも入会申込書をダウンロードできます。http://ohata.jp/manyou/

山陰万葉と歩く会

第6号
平成28年2月29日発行

江津ゆかりの人麻呂に思いをさせ 小中学生が短歌づくり

万葉歌人柿本人麻呂ゆかりの江津市で六月から十一月の間、市内の小中学生が短歌づくりに挑戦する「短歌教室」が、二中学校五小中学校で開かれました。故郷の歴史文化を学び、豊かな表現力や言葉への感性を育んでもらおうと、市教育委員会が企画。子どもたちは、人麻呂に思いをさせながら、日本の伝統文化である和歌の魅力に触れました。

人麻呂は約千三百年前、役人として石見国に赴任。妻・依羅娘との別れなどを詠んだ和歌は、奈良時代の有名な歌集「万葉集」に収められています。依羅娘の出身地は江津市二宮町と伝えられ、市内には人麻呂や依羅娘の歌碑や銅像が各所にあります。

短歌教室は鳥根、鳥取両県の万葉に興味のある方々づく「山陰万葉を歩く会」の川島芙美子会長、松江市雑賀町

が講師を務め、七校で計十二回実施されました。

十月にあった江津東小(後地町)での短歌教室には、五年生二十二人が参加。川島会長が児童の作文の中から良い言葉や表現を見つけて印をつけ、子どもたちはそれを参考に五音と七音の言葉抜き出し「大好きな私のクラス たくさんの笑顔 いっぱい うれしいな」「夏休みのはれなかつた スカイツリ」などで代わりに「水族館」



など、自由な発想で「五七五七七」の短歌を作りました。授業を受けた岡田夏海さん(十一歳)は「短い言葉で思いを表現するのは難しいが、それが面白かった」と感想を語り、川島会長は「短歌作りを通じ、自分の心をかたちにし、相手に伝える大切さを感じてくれた」と話していました。

もうすぐ新年。お正月遊びで、百人一首かるたを楽しむ人もいます。皆さんも、自分の気持ちや三十一文字で表現した昔の人たちのように、歌詠みに挑戦してみてくださいか。

平成二十七年十二月二十三日
山陰中央新報「さいん学園」より

因幡万葉歴史館

万葉集朗唱の会

因幡万葉歴史館では万葉集の朗唱の会を平成十年に始めて以来十八回目を迎えました。大伴家持が因幡で詠んだ歌「新しき年の始の初春の 今日降る雪の いや重げ吉事」が万葉集最後の歌であることは多くの方がご存じです。因幡では、この歌を大切に、様々のことに取り組みできました。その取り組みのついでに万葉集朗唱の会です。

今年も好天に恵まれ、県内を始め県外からもたくさんの方が会場の野外ステージ「伝承館」に来てくださいました。万葉衣裳で着飾り、当時の雰囲気を感じながら人ひとりが思い思いに家持が詠んだ歌を朗唱してくださいました。

この朗唱の会に参加するため健康管理をし、体力づくりをして来てくださる方や初回から連続で参加して下さる方が家族で毎年参加して下さる方々、多くの方々の応援を

いただいている朗唱の会です。
また、地域の児童の皆さんや保護者ボランティア方実行委員による万葉パレードは、大伴家持が政治を行った国庁跡までを進みました。刈採り間近に実った稲を見ながら、家持や当時の人々の暮らしもこのようであったのかと因幡国庁周辺の豊かな秋の田園道を賑やかに進むことができました。



鳥取市・因幡国庁周辺

一方当歴史館に隣接する中央公民館で行われた大伴家持大賞の表彰式や講演会も大変盛況でした。大伴家持生誕千三百年を記念した事業が各地で進められている中、因幡万葉歴史館の朗唱の会も再来年は二十回目を迎えます。県内外から多くの方々に来館いただけるよう、しっかりと準備をしたいと思えます。
(山陰万葉を歩く会理事)

平成二十八年は憶良が伯耆に赴任して千三百年 山上憶良を まちづくりを活かす

倉吉市立図書館長 山脇 幸人

伯耆国庁、伯耆国分寺、伯耆国分尼寺を擁した古代の倉吉は、伯耆国(鳥取県中西部)の政治・経済・文化の中心地でした。奈良時代初期の七二六年には著名な万葉歌人山上憶良が国司として赴任しています。憶良が職務に励んだ伯耆国庁は、現在国庁跡として知られる場所ではなく、それより二五キロほど東に位置し河運の便が良い不入岡(ふにおか)遺跡にあつたのではないかと想像されています。



倉吉市・古代遺跡周辺

残念なことに現在に確実には伝わっていませんが、四年ほどと思われる赴任期間に、憶良は政務の傍ら多くの短歌を作つたと思われまふ。これにちなみ平成二十四年度は市内の小中高校生、二十五年年度からは県内の一般、小中高生を対象に短歌を募集し、地域の魅力を知ってもらうとともに、伯耆国庁、国

八点に対し市外千九百四十四点と、この事業も県内にますます浸透してきました。
また、米年度は山上憶良が倉吉に赴任して千三百年に当たることから、演劇シンポジウムなどの記念事業を行いたいと希望しています。

短歌募集事業もこの四年間に蓄積したノウハウを基に、応募対象を全国に拡大することにより、「わがまち倉吉」をより多くの方に知っていただき、県内外の短歌歴史愛好者の関心を高め交流に結びつけるとともに、市民一人ひとりの地域に対する肯定感、誇りの意識を醸成し、まちづくりに活かしていきたいと考えています。
(山陰万葉を歩く会会員)

「山陰万葉地図」 英語版作成に思う

公益財団法人A F S日本協会
松江支部長 邊 和佳子

二〇二五年の訪日外国人客数は約千九百七十万人、大阪万国博覧会が開かれた一九七〇

十方約二百六十人の高校生を受け入れ、日本から約三百七十人の高校生を海外へ派遣しています。

鳥根県エリアを担当するA F S松江支部でも、十六歳から十八歳の外国人高校生を毎年数名受け入れ、彼らは県内のご家庭で約十カ月間ホームステイしながら地元の高校へ通っています。近年受け入れた留学生の出身国をみても、中国、韓国、香港、タイ、マレーシア、ラオス、米国、カナダ、イギリス、ドイツ、オーストラリア、ハンガリー、デンマーク、チリ、ポリビア、スペイン、ブラジル、オーストラリア、ニュージーランドと様々。支部活動を開始した一九八六年から通算すると三十五か国百九十七人の留学生(短期を含む)を受け入れられました。

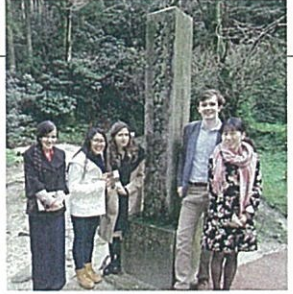
「万葉集」は歌集なので、その歌の心は全世界



夏祭りの神輿担ぎ



多国籍で大山登山



大田市・龍源寺開歩を見学

に共通する普遍性をもっています。また山陰は、伝統的な祭りやその背景にある神社の持つ神話伝承があり、その上、その自然を基に、国の役人として来た万葉歌人のすばらしい歌も残っています。
山陰を訪れる観光客や高校生への旺盛な好奇心を満たす格別なガイドとなるでしょう。楽しみにしています。
また皆さんも元氣な留学生を家族として受け入れてみませんか。
(連絡先) w.tanabe@afso.jp

「中海湖岸の発達と門部王の歌、 出雲国の成立に神秘を探る」 に参加して

山陰万葉を歩く会 会員 岡村 洋次

山陰と一口に言っても鳥取県の東の端因幡から、鳥根県の石見地方まで約四百キロもあり、米子市と隣接し身近なはずの出雲でさえ、今こそ車や列車で約二時間三十分と近くながらも、過去を遡れば歴史的にも地理的にも近くて遠い国でした。古代、大陸への表玄関だった日本海側、わが山陰の地は古事記や日本書紀の舞台であり、「万葉集」というキーワードをもつてすれば、大伴家持、柿本人麻呂、山上憶良と錚々たる歌人が活躍した舞台となつた日本国内屈指の地でもあります。

昨年七月、松江市の風土記の丘で開かれた講演会に参加して、私の数少ない万葉歌人の知識の中に、門部王(かどべのおおきみ)が加わることになりました。「大伴家持大賞」という鳥取の新聞社が主催する全国公募

短歌賞に携わつてきた私にとって、家持は身近で、地域の歴史文化遺産として感心を持ち続けてきました。
「新たしき
今日降る雪の
いや重げ吉事」



鳥取市・大伴家持の歌碑

平成十四年、私も少しかかりを持って、万葉集の編纂者と言われる大伴家持が唯一因幡で残したこの一首に「千の風になつ」の訳詩者として知られる芥川賞作家、新井満氏が曲

年以来四十五年ぶりに訪日外国人客数が出国日本人数を上回つたそうです。地域で生活する外国人の方も随分増えました。それでも、いざ一緒に暮らすとなると、また一般的とは言えないでしょう。

外国人が我が家に来る二昔前は大変なことでした。食事は、トイレは、お風呂は、布団は・・・考えるだけで頭がいっぱい。家の中に「異文化」が入り込むのは家族全員の相当の覚悟が必要でした。昨今ICTやSNSのおかげで手軽に海外情報が手に入り、自動翻訳ソフトだつてあるし、「和食」は立派な世界ブランド。そんな今「海外から人を招いて我が家でゆっくり話してみたい」と思った時が異文化交流のチャンスです。

A F Sは、第二次世界大戦中に傷病兵の救護搬送に携つた米国ボランティア組織 American Field Serviceの活動をきっかけに、戦争のない平和な世界の実現をめざし、一九四七年以来三ヨーロッパの国際本部を中心に国際教育交流団体として活動しています。その日本組織が公益財団法人A F S日本協会であり、現在約四

を付け、CDが製作されました。因幡の人たちが家持に目をむけ、ふるさとを誇りに思うきっかけになればと考えたからです。
今回講演会に参加して、中海に出雲を中心としたくびきジオパーク構想があることを初めて知りました。そして、「飢宇の海」
河原の千鳥波が鳴けば
わが佐保河の
思はゆらくに」
と門部王が詠んだ、「飢宇の海」の千三百年前の中海の景観が、歌とともに地質学的側面からも研究が取り組まれていることが、非常に興味深く感じました。
「ご承知のとおり、京都から鳥取市にいたる海岸は世界ジオパークに認定されています。家持が国司として赴任した鳥取市国府町もジオパークエリアにあります。因幡と出雲の神話伝説、万葉歌の舞台が「ジオパーク」というキーワードでつながり、回廊で結ばれれば、日本の「歴史、景観の原風景の地山陰」として、世界に大きな魅力を発信できると思えます。
(元日本海新聞記者)

『山陰万葉を歩く会』と 『くにびきジオパーク活動(鳥根大学)』 との共催見学会に参加して

山陰万葉を歩く会 会員 寺本 静治



くにびきジオパークプロジェクトと山陰万葉を歩く会の共催見学会に参加させて頂き、安来市を中心に周辺の地質そこに残る独特な遺跡や自然の景観を満喫して参りました。

五世紀前半の中海沿岸(特に安来市荒島の古墳。その素晴らしい景色を現地の景観を背に見学させて頂くと「万葉歌人・門部王の、
「意宇の海の 河原の千鳥 汝が鳴けば わが佐保河の 思ほゆらくに」



安来市荒島・古代王陵の丘にて

面での 位置的 特徴の 為に複 雑な気 流・海 流の影 響を受 け世界

という歌が思い出されます。まさにジオパークの講座でお聞きした鳥根の地質・自然のすばらしさがあつてこそ生まれた歌で「意宇の海」つまり古代出雲の国力強さを表しているのだと得心いたします。

そんな感慨を持ちながら参加させて頂いたこのプロジェクトへの大きな期待をこでお伝えできればと思います。



安来市・昆壳塚古墳前

でも稀な豊かな自然を育ててきましたし、そこで生まれ生きる人々に豊かな心・文化の礎となるとても美しい環境をもたらしできました。

まさに「ジオパーク」や「万葉文化」の世界だと思ふのですが、鳥根周辺だけでも大山や隠岐、鳥根半島・ラムサール条約でも知られる宍道湖・中海、三瓶、良質の鉄を含む中国山地の山々、石見銀山、その西から流れ出る江川・高津川の流域。雄大な自然の景観を挙げればキリがありませんし、その鳥根の自然を基点に生まれる人物・産業・交易・文化は中世・近世まで国内・国外に大きな影響を与えてきました。鳥根には世界に誇れる特異な自然と文化があり偶然にも多く残っているのは皆さんご存知の通りです。

りです。

さらに古代においては、日本海に面している出雲・隠岐・石見は、ジオパーク的にも注目されるその地理的特徴以外に、日本海沿岸航行の際は避けて通れない関所でありました。中央も注目せざるをえない要所で、貴人・氏族もたくさん赴任・移住してきました。そういって人達がこの地の自然に触れ、非常に優れた文化を「万葉集」などの貴重な形にして残してくださっているのも鳥根の自然の豊かさを知れば当然なのかもしれません。

近年、志ある方々を中心に官民一体となって地域の歴史と自然への理解が深まっていますが、

放送大学「面接授業」 (日本の夜明けの鍵を握る石見)に参加して

粟嶋神社前宮司内 佐々木 由紀子

昨年八月、新聞の折込にNHK講座案内「万葉集を読んでもませんか。(講師・川島美美子氏)を見つけました。その時、今までの思い出がよみがえり：

少し勉強してみようかなと思っていました。私事ですが、夫は粟嶋神社(祭神少彦名の命)の宮司でした。夫の兄たちも「万葉集」に



お招きして人麻呂にかかわる催しを実施しました。午前は「人麻呂さんと五十猛」その御神像を巡って」と題する講演をいただきました。

川島先生は、万葉集と人麻呂についての入門的な解説から、御神像の制作とその後の行方や、それにまつわるエピソードまで、バラエティに富んだ話をされました。この講演には雲南市など大田市外からも多くの参加がありました。約三十名の聴講者は、興味津々と聴き入って、人麻呂の人物とあの時代についての理解を深めました。

午後には、五十猛町にある人麻呂ゆかりの地点を探訪しました。五十猛町大浦には「大崎ヶ鼻」と呼ばれる日本海に突き出した岬があつて、古くは「辛の崎」と呼ばれていました。地元には万葉集に詠われている、あ



大田市・人麻呂神社跡にて

昭和五十二年にそこを訪れた梅原猛氏は「人磨の 悲しみ残る五十猛の 辛の崎を こと定めんか」と詠まれ五十猛の地も人麻呂歌の舞台であった可能性を示唆されました。

当日は晴れ渡った秋空の下、「辛の崎」からは鳥根半島や三瓶山がくっきりと見渡せました。また、反対方向に目を振れば、江津方面の海岸もはつきり見え、浅利富士や星高山(高角山)も目に入るようで、人麻呂さんになりきることができました。なお、岬の手前には、「伝人麻呂神社跡地」もあります。(石見銀山ガイドの会 副会長)



市・神社 子嶋内 米子境内 米子水鳥公園 第一駐車場

「大汝 少彦名のいましむ 志都の岩屋は幾代経らむ」生石村主真人(巻3-135) また、百八十六段の石段

関心があり、休日には万葉歌碑めぐりの旅行や、万葉花写真展(写真家 岡田憲佳氏)を米子市美術館で開催(平成十二年)したりしました。千人余の来客に岡田さん満足でした。神社境内(山麓の西側)に粟嶋が島だったときに出来た洞穴。静の岩屋。と呼ばれている所があります(この洞穴には八百姫伝説も残されています)。県や市の助成により平成十四十五年「静の岩屋ゆかりの万葉歌碑」(揮毫 加藤米南氏)が二基、米子水鳥公園駐車場と神社境内に建立されました。

を登った山頂の本殿の横に、大山、中海、安来、鳥根半島が見える見晴らしのよい所があります。そこで夫は舒明天皇の「望国の歌」や柿本人麻呂の「石見の国より妻に別れて上り来る時の歌」などいつ覚えたのか、お得意の大義孝節で聞かされたこともありました。夫は申年の平成十六年に急逝しました。今年も申年「万葉集」にひかれたのは申の神様のお導きでしょうか? とまあこれのような環境で、「万葉集」に少し興味があり一歩踏み出して十月から受講し、この度の益田での講座に参加いたしました。



放送大学「面接授業」の様子(益田市・高津柿本神社内)

先生方の奥深い講座に感銘し、夕食後は青年のエネルギー

神話のまち 五十猛・歴史散歩

長尾 英明

大田市五十猛町では、まちづくり事業として毎年「神話のまち五十猛・歴史散歩」というイベントを開催しています。

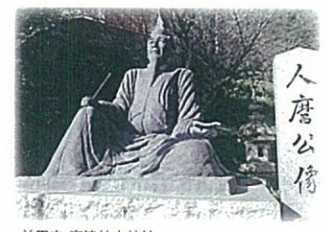
昨年(平成二十七年)は十月三十日に、川島美美子先生を

五十猛まちづくりセンター長

ひとまるさんが息づく石見を切り撮る

山陰万葉を歩く会 伊藤 耕

文学には縁遠い私が万葉集に触れることになったのは、山陰万葉を歩く会の川島美生子会長から聞いた「柿本人麻呂以外に、山陰には大伴家持、山上憶良、門部王も赴任していた」の言葉だった。社会科の授業で習ったあの人たちが、千年も前に今私たちが住む山陰で仕事し生活していたとは、山陰のどこで、どんな暮らしをしていたのかわりたくなかった。



益田市・高津柿神社



江津市・万葉公園

そんな矢先、三月に開催される「ひとまるシンポジウム in IWAMI」で上映する映像を撮ってほしいとの依頼があった。「万葉集」や「柿本人麻呂」のことをほとんど知らない私が制作するのだから、専門家に見せるものではなく、観光客や小中学生でも分かる内容に仕上げることを目標にして取材と撮影を始めた。取材地は、人麻呂さんゆかりの益田市、浜田市、江津市、大田市、美郷町の四市町。



江津市・万葉公園

ゆかりの地を訪ねると「これがひとまるさんの足跡が残る岩です」。石見の妻依羅娘子の生誕の地では「えらひめさんは誇りです」と誇らしげに語ってくれる地元の人たちがなんと多いことか。訪ねれば訪ねるほど千年以上にわたって伝承してきた石見の人たちの情熱を何とか伝えたいという思いが強くなってきた。そして、取材をすればするほど、万葉集の中で最高傑作の恋の歌といわれている「石見相聞歌」を現代の若者たちを知ってほしいと強く思うようになった。

お知らせ



万葉フェスティバル in いわみ

《恋結び 歌結び 縁結び in いわみ》万葉の恋愛のすばらしさを、歌を通じて味わいます。

- ◎平成28年3月19日(土) 10:00~15:00 【問合せ先】
- ◎地場産業振興センター 江津市嘉久志町1405 江津市商工観光課 TEL.0855-52-7494

ひとまるシンポジウム in IWAMI

今も残る古代石見の豊かさを、ひとまるさんの足跡が示しています。

- ◎平成28年3月26日(土) 11:00~15:30 【問合せ先】
- ◎益田駅前ビルEAGA 益田市駅前町1-7 益田市観光交流課 TEL.0856-31-0331

楽しみ、3月末完成予定!

- *英語版「山陰万葉地図」平成25年度発行の第1号「山陰万葉地図」が英語版に变身します。
 - *出雲国と因幡国の「山陰万葉地図」平成27年度発行の第3号は、出雲国(門部王)と大和国、因幡(大伴家持)と大和国の万葉つながりがわかります。
- 【問合せ先】江津市商工観光課 TEL.0855-52-7494



益田市・戸田柿神社

玉藻なす 寄り寝し妹を。美しい藻のように寄り添って寝た妻。妹が門見む 靡けこの山。妻の家の門が見たいとけ山よ。現代の草食男子では到底発想しないまめかしく、情熱的な恋心が表現されている。歌碑の前に立つ「平成の日本男児よ情熱的な恋をしろ」とひとまるさんが叫んでいるような気がしてならない。冬の山陰の天気は変わりやすく、天気予報とにらめっこしながら撮影を続けているが、とても順調とはいきれない。さてさてどんな映像に仕上がるやら、三月二十六日「ひとまるシンポジウム in IWAMI」を期待あれ。

平成二十七年度山陰万葉を歩く会総会について

事務局 和田 光信

平成二十七年七月二十六日、平成二十七年山陰万葉を歩く会総会が、松江市の島根県立風土記の丘研修棟にて、島根大学による「くにびきジオパークプロジェクト探訪会」と共催で実施されました。

総会の議題として、議案第1号平成二十六年度事業報告の承認について、第2号議案平成二十六年年度取支決算報告の承認について、監査報告とともに異議なく承認されました。

ついで、議案第3号平成二十七年年度事業計画(案)の承認について、第4号議案平成二十七年年度取支予算(案)の承認についても、異議なく承認されました。

その後は、因幡万葉歴史館の金指館長より事業の紹介、山陰万葉を歩く会の末成弘明顧問より挨拶をいただきました。今回の総会は、島根大学との



共催であったため、多くの大学生も参加され、本会の活動を広く知っていただく良い機会であったと思っています。(江津市商工観光課)



山陰万葉地図(vivid 万葉/1号・2号)

山陰万葉地図を希望の方は、事務局(江津市役所市工観光課まで) TEL.0855-52-7494

万葉の里ごうつ 「人麻呂と依羅娘子」せんべい誕生



全国にも江津の万葉の香りを気軽に味わえるせんべいが誕生しました。県外へのお土産としても好評です。どうぞ味わってください! (販売:珍味の大倉 TEL.0855-52-1178) 万葉歌人柿本人麻呂とその妻、依羅娘子。江津では今でも人丸さん・恵良媛(えらひめ)さんと呼ばれて親しまれています。高角山公園に二人の像が設置されているほか、江津市には万葉集の歌碑も七基あります。「笹の葉は み山もさやに さやげども 我は妹思ふ 別れ来ぬれば」(巻2.133柿本人麻呂) 子供たちにも、1300年前の面影が偲ばれる故郷を大切に思いやる心を育てる基盤になれば...と思っています。(山陰万葉を歩く会 員田中 俊晴)

HITOMARU 創作スイーツ



アートスイーツ★Fuの「ふーさん」は益田市内在拠点に活躍中で、益田市内在の数店舗にスイーツを納品するほか、各種イベント時にはイベントのイメージに沿った創作スイーツの制作をされています。この度、3月26日(土)に開催する「人麻呂シンポジウム in IWAMI」の参加者特典として、ふーさんに「HITOMARU創作スイーツ」の制作を依頼しています。どんなスイーツが出来上がるか、今から楽しみです。多くの皆様のお越しをお待ちしています。(益田市観光交流課 主任主事 中島 光太郎)

